

がん化学療法看護 担当：荒川環（がん診療部）川野理沙（5階東病棟）
三輪真砂子（がん診療部）

宮崎大学医学部附属病院

抗がん薬曝露予防のための取り扱い指針—投与管理編—を改正しました

看護師は、抗がん薬の投与管理や経口抗がん薬の管理と服薬介助、抗がん薬を含んだ排泄物の処理など他職種より抗がん薬に接する機会が多くあります。

抗がん薬は、健康被害（急性の毒性症状や発がん性、生殖毒性など）を引き起こします。そのため、抗がん薬を取り扱う時には曝露しないために適切な対策を取る必要があります。

2015年度版曝露対策合同ガイドラインを元に、「宮崎大学医学部附属病院 抗がん薬曝露予防のための取り扱い指針—投与管理編—」の内容を改正しました。自分自身や周りの人達の健康、環境を守るためにも、適切な曝露予防の方法を理解し、実践する必要があります。今一度、改正した指針を元に、日頃の抗がん薬曝露対策を振り返ってみましょう。

看護師が抗がん薬に曝露する機会

- ・抗がん薬をジッパー付きビニール袋から取り出すとき
- ・抗がん薬の輸液ボトル交換時
- ・患者のリネンや排泄物の処理
- ・経口抗がん薬の服薬介助
- ・針刺し事故を起こしてしまった場合 など

輸液セットのびん針や三方活栓の先端には、下記の写真のように抗がん薬が付着しています。抗がん薬は目に見えないため体内に取り込まれて長い期間蓄積されることで健康被害が出る可能性があります。



写真①

写真②

写真①②は、ブラックライトに反応する薬剤を使用し、抗がん薬の可視化を表した写真

宮崎大学医学部附属病院 抗がん薬取り扱い指針 —投与管理編—

主な変更点

- ・抗がん薬曝露の報告例を追加
- ・抗がん薬投与開始～投与終了後の廃棄手順
- ・内服薬、経管注入、腔内注入時の取り扱い
- ・業務場面における個人防護具（PPE）の選択
- ・尿/便中に抗がん薬が含まれる期間
- ・曝露予防のための患者/家族への教育資材～化学療法を受けられる患者さんとご家族の皆さんへ～

※がん薬物療法を開始する患者さんやご家族への指導の際にご活用ください

掲載場所

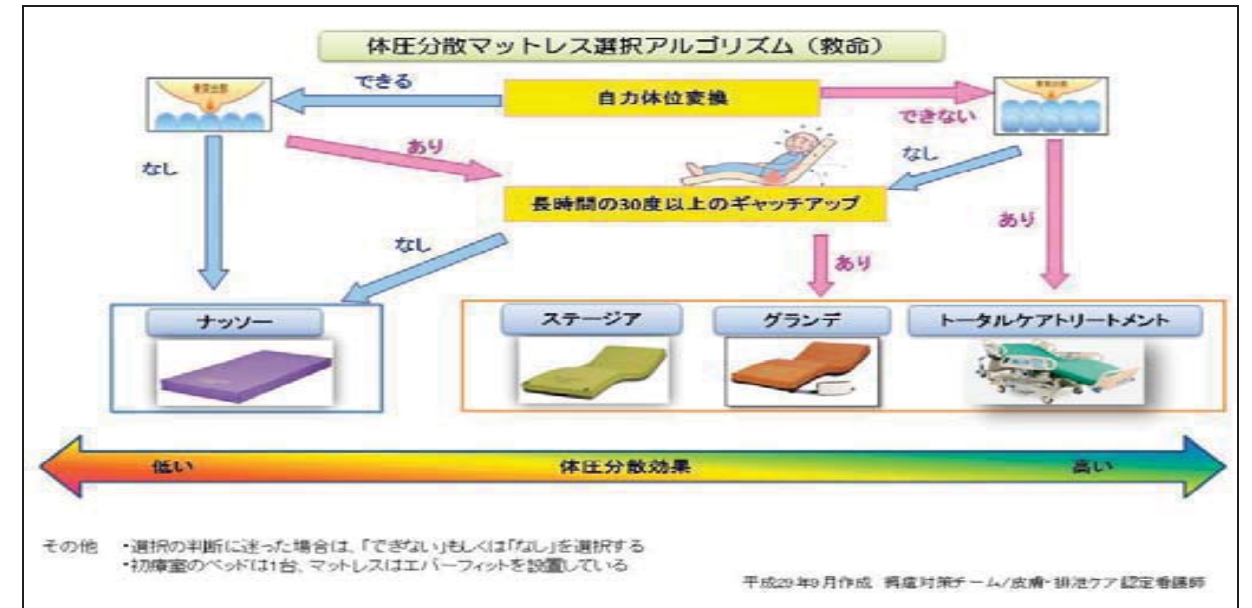
「病院運営マニュアル」に掲載されます。

皮膚・排泄ケア 担当：竹生まゆみ(外来)、竹入恵美(3階西病棟)
望月祐美（看護実践支援室）、児玉裕子（7階東病棟）

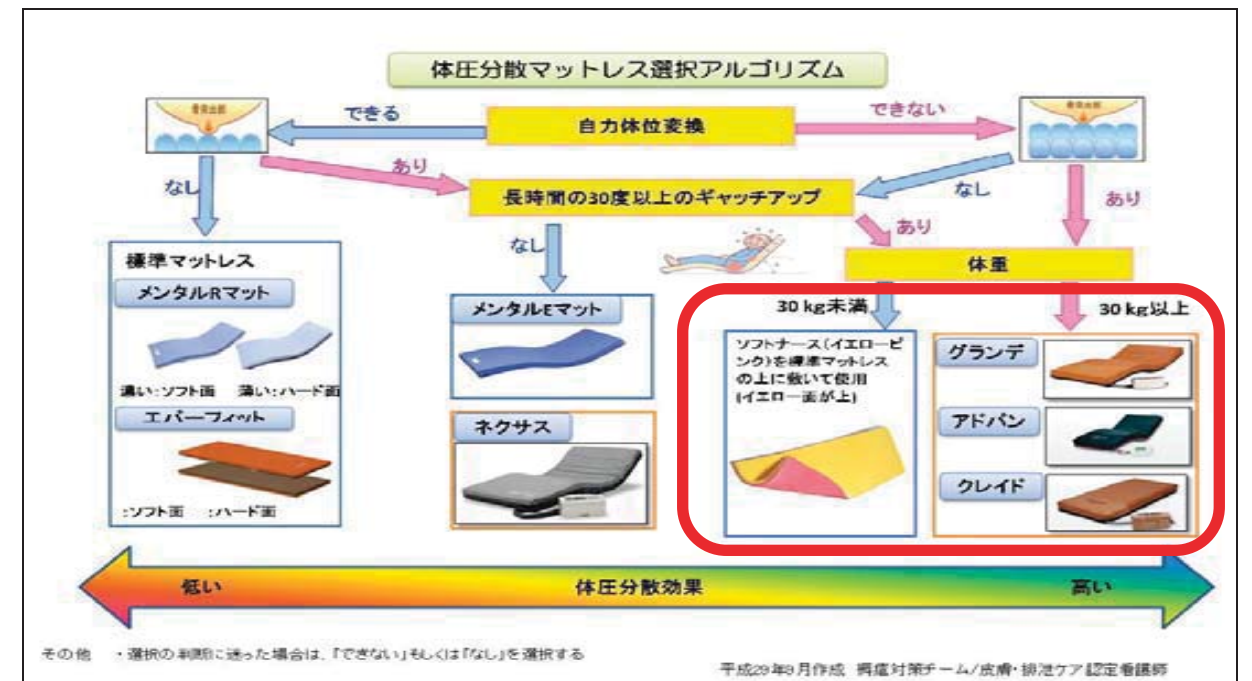


「体圧分散マットレス選択アルゴリズム」のご案内

- 救命救急センター用の体圧分散マットレス選択アルゴリズムを作成しました。
※救命救急センターのみで使用しているマットレスがあります。



- 一般病棟用のアルゴリズムに、赤枠部分を追加しました。
※体重の軽い患者に対するマットレス選択についてわかりやすく記載しました。



2017年11月発行号

宮崎大学医学部附属病院 看護部